
先生との一晩

美香

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先生との一晩

【ZPDF】

Z5043C

【作者名】

美香

【あらすじ】

部活中に倒れてしまった私気付けば病院のベッドの上で寝ていた。その病院での先生と私の会話です。

私（長橋美香）にひとつ良いことがおきた日の話です……。

『中学一年生の夏休み』 「夏休みなのに毎日部活があるなんてやだねえー」 「そつだねー」。

少しは休ませて！って感じ！』

今の中学生はみんなこんな感じの会話ばかりしている。

毎日部活があるのが嫌らしい……。

私も表では嫌なフリをしているが、本当はそんなことまったく思っていない。

なぜなら、部活の先生（神山響也先生）に恋をしているから……。

いつも先生の事を見つめている……。 今も楽器を吹きながら先生の事を見つめている……。 ……。

あれっ！？

目の前が回ってる！？ 頭がフラフラする！？ 何で！？

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

気付いたら、私は病院のベッドの上にいた。
隣には私の片思い中の神山先生が、腕を組んで椅子に座つて寝ている……！？ 何で！？ 何で！？ 何で！？ あー、頭がこんがらがつてきた……。

「長橋！大丈夫か！？」 神山先生が私の顔を覗き込んで、心配そうに聞いてきた！？

先生の顔が近い！

「先生！な、何で私、こ、こんな所で、ね、寝てるんですか！？」 わけが分からなくて言葉が詰まってる。

「覚えてないのか！？」

「はい……。何で先生の顔がそんなに

心配そうなのがも分かりません。」　先生の顔が少し赤くなつた
ような気がした。

「じゃあ、お前はどこまで記憶があるんだ・・・？」エツ、どこまでつて先生を見つめてたここまでだけどそんな事先生に言えない。
えーっと、あの時何してたつけ！？そうだ！思い出した！

「楽器吹いてて先生が教室に入つて来た所まで。」

「そうか。それじゃあ、何でお前がここにいるか知つてるわけない
か・・・。じゃあ、簡単に話すぞ。お前、倒れたんだ。」

えつ、うそつ！？何で！？驚きのあまり疑問が声にならなかつた。

「でも、心配するな！命がどうとか、手術がどうとかそんな、大変
な事じや無いらしいから。」　キヤー――――――！

先生が微笑んで私の事を見ている――――――――――――――てつ、そんな
事よりも・・・

「私、病気なんですか？」たぶん、この時の私は「ぐく不安な顔して
たんだろうなあ。

「病気じや無いよ。俺も詳しい事は聞いてないから原因とかは分か
らないけど。でも、病院の先生がたいしたことないって言ってたか
ら。大丈夫！！」

なんか、先生の言葉がすごく嬉しいそれに、先生とこんなに話した
の初めて。なんか、先生と2人だけで話してると思うと顔がニヤけ
てしまいそうだ。

もしかして顔がニヤけてるかも・・・。

「そうだ！！先生、今何時ですか？外暗いみたいですが・・・。」

カーテンの隙間から見るかぎり夜遅いのは確かだ。

「12時だよ。」　12時――――――！？こんな時間に、

お父さん以外の男の人と一緒にいたこと無い。

先生が初めてかも・・・。嬉しさで死にそー。　今度は絶対、
顔がニヤけてる。

「先生、家に帰らなくとも大丈夫ですか？」

「なんでつて・・・。」

でもなんか不思議そうにしてる先生の顔がカワイイ。

奥さんとかが待つてないですか?」

「俺、結婚してないから奥さんなんていいよ。」うそ――！

卷之三

今、一瞬チャンスがあるかもとか考えちゃった・・・

「先生、結婚していないんですね！たしか、24才でしたよね？」

「ううたよ!! よく覚えてたね!! 実は俺に気があると

私、顔に出やすーハイタイプだから先生に氣付かれたかも知れない！

笑い声が聞こえた。

「冗談だよ！なんか、長橋つてからかうと面白い。」バレなかつたらしい・・・よかつたあー。

「からかうなんて先生ヒドイ！一のかな？」

私は、頬を膨らまして怒った。「すまん、すまん。」

先生が笑って私を見る！今なら死んでもいいしかね
「もう、からかつねーぞー！」話は變りますが、一間院

とにかく、全部活用けなく

て先生に逢えなくなるから嫌だ・・・。

「入院なんてしないよ。明日の朝には家に帰れるよ」

良かつたあー！
俺がお前

先生に送ってもらいたい!!?嬉しい!!!

て2度と無いと思うから送つてもらいたいけど・・・

「もともと連こののは俺だから・・・。」「

「… 何で先輩？」
「… もともと悪いのは俺だから…」

「先生が何で、悪いんですか？」

しそうになつた。

先生の顔が悲

「俺が部活にきちんといてお前の体調が悪いのに早く気付けば、お前は病院に来る必要なかつたんだから」先生すくなく気にしてる。
「先生！…そんなこと気にしないでください。私がもし先生が原因で死んだら、気にするかも知れませんが。病院に来たくらいでクヨクヨしないで下さい。気にしてばかりいると私、逆に怒りますよ…」

言つちやつた・・・。

分かつた。でも、お前を家までは送らせん。

「じゃあ、お言葉に甘えて送つてもらいます。

この後、私は眠いからと言つてすぐに寝た。

家に帰つたはず。

あんな夜は2度と過ごせないだろう。
になつた一晩だつた（私にとつて）。

そうだ！私が倒れた理由は貧血（結構

ヒドイ）だつたんだつて…！

病院編（後書き）

一応連載にしましたが、皆さんからのコメントがなければ書きません。
ん。御了承願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5043c/>

先生との一晩

2010年11月19日16時51分発行